

多くの人々の関心を集めた安倍首相の「戦後70年談話」が8月14日の夕方に TV の記者会見で発表されました。(赤い文字は <http://www.asahi.com/articles/ASH8G5W9YH8GUTFK00T.htm> から抜粋)

会見での冒頭の発言は、**政治は、歴史から未来への知恵を学ばなければなりません。**続いて、**政治的、外交的な意図によって歴史がゆがめられるようなことは決してあってはならない、このことも私の強い信念であります。**ビックリ！信じられな～い！**彼は心変わりしたのか**と半信半疑になりつつ、熱心に聞いて行きました。

まず歴史理解について、**西洋諸国の植民地支配による危機感と世界恐慌による経済のブロック化**により、日本は**経済的打撃**を受け、**孤立化し、武力行使による解決を求めた**と解説がなされました。日本を犠牲者の立場に置き、**日本が台湾、朝鮮を植民地化したことには全く触れていません。**

次に戦争被害者への言及は**戦死者のみならず、原爆、爆撃による市井の人々、中国、東南アジア、太平洋の島々など、戦場となった地域での無辜の民の犠牲、戦場の陰には、深く名誉と尊厳を傷つけられた女性たちの命の前に、深く頭(こうべ)を垂れ、痛惜の念を表すとともに、永劫(えいごう)の、哀悼の誠を捧げます**と国内外での犠牲者を追悼しています。**痛惜、哀悼**とだけ述べていいのでしょうか。英語訳では**決して忘れてはならない**とありますが、**赦しを求める**という言葉であって欲しいと思います。それにしても、ここで女性と言及しているのは誰のことでしょうか。従軍慰安婦だとすれば、その存在を否定している従来の政府の発言、姿勢とに大きなギャップを感じざるを得ませんでした。

これほどまでの尊い犠牲の上に、現在の平和がある。これが、戦後日本の原点であります。二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。**事変、侵略、戦争。**いかなる武力の威嚇や行使も、国際紛争を解決する手段としては、もう二度と用いてはならない。安倍首相は、ここで憲法9条を尊重しているかのような文言を述べているのに、大事なこととして、最も注目を集めていた言葉「**事変、侵略、戦争**」が、♪ヨコハマ、たそがれ、ホテルの小部屋♪のフレーズのように、意味ありげながら、軽く、**ただの単語として流れた**のには驚いてしまいました。

その後、戦後の日本が先の大戦への深い**悔悟**の念と共に、…寛容の心によって、戦後、国際社会に復帰することができたと反省と感謝を述べています。引き続き、我が国は、先の大戦における行いについて、繰り返し、痛切な**反省**と心から**のお詫(わ)びの気持ちを表明してきました**と日本語では過去形のようなようですが、英文では**現在完了形**で締めくくっています。けれども直截に、与えた被害に対し、**反省、お詫びします**と言ってほしいものです。

安倍首相の結論、我が国は、いかなる紛争も、法の支配を尊重し、力の行使ではなく、平和的・外交的に解決すべきである。この原則を、これからも堅く守り、世界の国々にも働きかけてまいります。唯一の戦争被爆国として、核兵器の不拡散と究極の廃絶を目指し、国際社会でその責任を果たしてまいりますは全く同意するものです。それを実行してほしいと切に願います。

ところが、次の2点が、安倍首相がこの談話で語ったことと**全く食い違っている**のです。(1)日本では、戦後生まれの世代が、今や、人口の八割を超えています。あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに、**謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません。**歴史に学ぶと言うのであれば、負の遺産を心にとめ、二度と繰り返さないように心掛けなければなりません。(2)我が国は、自由、民主主義、人権といった基本的価値を揺るぎないものとして堅持し、その価値を共有する国々と手を携えて、「**積極的平和主義**」の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上に貢献してまいります。積極的平和主義と称して政府が立案しているのは、同盟国の戦争に加担し、自衛隊を参加させようとする安保法制です。この大きな矛盾、欺瞞を決して見逃すことはできません。安倍首相のどの言葉を、真実の言葉、真心の言葉として受け止めたらいいのでしょうか。